途上国におけるインフレーションと労働移動.
不完備市場二重経済モデルによる分析

村尾 徹士
一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程
2009 年 4 月

概要

インフレーションが労働市場のパフォーマンスに与える影響は，マクロ経済学の中心的課題の１つである（Friedman, 1968; Tobin, 1971）．インフレーションはインフレリスクをヘッジできる実質資産市場の未発達，および比較的高水準のインフレ率にあるという意味で，途上国経済により大きな影響を持つと考えられる．本稿では途上国を念頭に置いて，インフレーションがインフォーマルセクター雇用比率および失業率に与える影響をシミュレーションによって検討する．ことに本稿では，途上国の労働市場の特徴である二重性（フォーマルセクターとインフォーマルセクターの共存）に焦点を当てる．OECD (2009) は，グローバルな金融危機の影響により，正式な雇用契約および社会保障による保護の恩恵を受けられずインフォーマルセクターにおける雇用が世界各国で過去最高水準に達しつつあることを報告している．このようなインフォーマルセクターにおける賃金は多くの場合低水準であり，発展途上国における貧困の深刻化に繋がっているとしている．

分析の結果，より高いインフレ率のもとでは，貨幣による失業に対する自己保険がより困難になるため，低賃金であるが就業の容易なインフォーマルセクターの雇用が増大することが示される．